

令和5年度 京都府立井手やまぶき支援学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

学校経営方針		前年度の成果と課題		本年度の学校経営の重点(短期目標/概ね1年間)	
<p>【教育理念】 地域と共に歩む学校</p> <p>【校 是】 光輝 地域(まち)を照らせ</p> <p>【学校教育目標】 みがく むすぶ きりひらく</p> <p>【目指す人間像】 よりよい社会と 幸福な人生を創り出せる人</p> <p>【経営方針】 中期経営方針(開校概ね3年間) ◇教育目標実現のために、開校後の第一期、三年間において、地域関係者・保護者に、教育実践・教育課程を理解いただきながら同時に、教育実践・教育課程づくりへの連携協働を進め、「井手やまぶき支援学校」がこの地域にあって良かった」という思いをもっていただけるように、あらゆる分野において精励する学校経営を実施する。そのために、学校予算の合理的かつ効果的な執行を実施する。 基盤となる課題・重点課題(「アクション7<セブン>」)を制定する。</p>		<p>前年度は開校年度ということで全ての取組が初めてとなる一年であったが、全体としてスムーズなスタートを切ることができた。開校年度の到達点を踏まえ、地域関係者・保護者から信頼され、期待される学校づくりを一層推進する。開校準備の段階から様々な御支援いただいたことで開校と同時に図書ラウンジの開館と読書活動の推進がスタートできた。さらに図書ラウンジを中心とした、『こまちサロン』では多くの方々に、豊かな体験型学習を展開していただくなど旺盛に活用できた。地域の方に支えていただく一方で、地域への貢献として高等部を中心とした清掃活動等を行うことができた。今後も「井手やまぶき支援学校がこの地域にあって良かった」と思ってもらえるような地域貢献活動を展開し、『地域と共に歩む学校』を目指していきたい。</p> <p>・生涯学習の基礎基盤を目指したCS(コミュニティースクール)との連携であるISCC(IdeSportsCultureClub/スポーツ・文化を楽しむ日)では、地域の諸団体・サークルの協力を得られ、実施できたが参加手段に課題があった。参加しやすく、参加者を増やし、より地域に根差した取組となるように展開していきたい。</p> <p>・感染症対策の徹底により比較的感染者も少なく、校内クラスターが起こることもなかった。今後も感染症対策と学びの保障の両立を追求する。</p> <p>・教育実践・教育課程を理解いただくための発信や学校公開のさらなる工夫を行う。今年度は開校第1期の中間として、また、自己研鑽の場として、中間実践発表会を実施する。</p> <p>・教職員の働き方では月45時間以上の超過勤務者が月平均22名を超えていた。自己管理を行えるような仕組みを設けると共に、業務の改善や分担等による業務時間の平準化を図る。はつらつさそうとした働き方は教育効果を上げることにつながるのとのお考えのもと追求していきたい。また、『みがく・むすぶ・きりひらく』教職員として児童生徒の模範となるよう、コンプライアンス意識をさらに高める。</p>		<p>井手やまぶきアクション7(セブン)開校3ヶ年計画うち2年目</p> <p>【基盤となる課題】</p> <p>アクション1 教職員の専門性確保と本校第2期への継承、「学ぶ・働く」を支える環境条件づくりと教職員の学びが子どもを育てるという意識の醸成 研究、OJT、外部専門家、働き方改革プロジェクト</p> <p>アクション2 多様な専門性を持つ教職員の、それぞれの専門性を生かした連携と協働。地域関係者・保護者との連携と協働 学校経理、施設・設備、情報の管理、情報の公開、危機管理、医療的ケア、学校運営協議会(コミュニティースクール)、PTA、YS(やまぶきサポーター)、YB(やまぶきボランティア)、外部専門家 等、インクルーシブ教育システムづくり</p> <p>【重点課題】</p> <p>アクション3 どのような時代であっても必要な資質・能力の育成 教科指導、教育課程、カリキュラム・マネジメント、(GIGAスクール)ICT 等 むすぶカリキュラム、(2年目中間実践発表会・3年目公開研究会)</p> <p>アクション4 生涯に及ぶ、生きる力の育成のための基礎づくり 読書活動、生涯スポーツ・学習、ISCC(IdeSportsCultureClub/スポーツ・文化を楽しむ日)、交流及び共同学習</p> <p>アクション5 大人に向けた健やかなからだ、豊かな心の育成 保健指導、安全教育、性教育、主権者教育、生徒指導、教育相談、特別活動、いじめ 等</p> <p>アクション6 自立と社会参加を実現し、幸福な人生とよりよい社会づくりを目指す力の育成 進路指導、キャリア発達、等</p> <p>アクション7 早期支援重視した地域支援推進、地域関係者・保護者との連携と協働 井手やまぶき相談・支援センターのみならず全校による地域支援</p>	
評価領域	重点目標	具体的方策/目標値	評価部門	総合	成果と課題
アクション1	【研究】 ・全校研究主題の、実践研究推進 ・実践発表会を行う	①外部専門家の助言や授業者支援会議から自らの実践を振り返る機会を持ち、授業改善を行う。(全担任実施) ②研究プロジェクトを立ち上げ、開校第1期の中間発表として令和5年度実践発表会(11月28日(火))、令和6年度公開研究会を行う。			
	【OJT】 ・教育公務員として府民に信頼される教育活動を基盤とし、児童生徒の規範となる誇りある行動実践に努める。 ・学校組織としての人材育成体制の整備	①体罰や不適切指導、職員間のハラスメントの根絶等、人権意識と社会人・教育公務員としての自覚と行動実践、コンプライアンスの向上につながる研修や実態調査の実施(不適切事象0) ②教育理念・学校教育目標の理解と学校経営目標を意識した教育活動の追求。中間期、総括期にアンケートにて振り返り達成度を確認する。 ③学部組織を重層的・機能的に運営するための学年・コース長、副の育成 ④教職員キャリアステージの指標の意識化とステージ別研修の実施 ⑤校内横断的総合企画の推進(3企画程度) ⑥専門組織が提供する研修動画等による研鑽(ナビゼミ、NISE 学びラボ、NITS オンライン講座等の受講1人月1回以上) ⑦初任者及び転入教職員・講師対象の校内研修の充実 ⑧教職員ハンドブック、学校施設管理マニュアル、文書マニュアル等の周知、活用、次年度に向けた見直し			
	【働き方改革プロジェクト】 ・ライフワークバランスを踏まえた安全で魅力ある職場環境の創出 ・愛校精神の基盤となるように清潔で美しい学校環境を築く。	①『やまぶきスマートプロジェクト』に基づく快適な職場環境の整備、ペーパーレス化、ノー残業デー、クリアデスク、リフレッシュの機会の充実、衛生委員会との連携等 ②会議の所要時間を45分以内とする。 ③時間外勤務を中間時点で各自が把握し、自己調整できる機会の提供。 ④業務時間の平準化(役職者の校務分担改善、担当管理職と業務内容・分担の相談、教員業務支援員の活用、年休取得の推奨、組織の視点等の意識改革)(時間外勤務月45H超教員0人)			
アクション2	【チーム学校】 ・質の高い教育活動を支える経営企画機能の充実	①多様な専門性を有するスタッフや外部専門家と教職員が自らの専門性を十分に発揮し、「チーム学校」としての総合力、教育力を最大化できる体制の構築 ②経営企画室と職員室の連携と情報共有による確実な業務遂行			
	【学校経理】 【施設設備】	①学校経営計画の具体化に向けた合理的・効果的な予算執行を学校経営会議で予算状況の開示を行い節減につなげる。 ②整理整頓されたきれいな教室・廊下、掲示板の整備・活用、花壇・植込み・農場の美化・整頓 ③絵画作品等の計画的展示等、アートギャラリーを活用した芸術活動の推進 ④府立学校体育施設開放事業の実施(年4回)			
	【情報の管理、情報公開】	①個人情報保護と紛失事故防止、クリアデスクの徹底 ②HPによる情報発信の活発化(各学部毎日発信) ③新聞社への広報(掲載1回/月)			
	【危機管理】 ・学校安全会議の計画的な運営による安全・安心な安全管理体制の構築 【医療的ケア】	①感染予防・感染拡大防止等対応の徹底 ②地域との災害時相互協力関係をPTA防災部と連携をしながら推進する。 ③『普通救命技師認定証』を保有する教職員(現有+10%以上) ④医療的ケア安全委員会を中心とした研修を計画的に行うと共に、医ケアに関するヒヤリハット事象及びインシデント・アクシデント情報の周知と事故発生防止の徹底 ⑤個別の緊急対応訓練の実施(各学部3回以上) ⑥あらゆる危機に対して、早期対応と情報共有、組織対応の徹底			
	【保護者・地域との連携・協働】 ・地域の中での生涯学習の基盤作りとして、地域と共に歩む学校づくりに向けた推進体制を構築 ・学校運営協議会(コミュニティースクール)、PTAとの協働	①学校公開(年5回)来校者(年700名以上)、やまぶき祭来校者(200名以上) ②学校評価保護者アンケートの回収率(90%以上) ③PTA(YS)、地域ボランティア(YB)による応援組織の構築(年延べ140名) ④PTA本部役員会への学年・コース長の参加と協働 ⑤PTAとCSの連携、CSの下部組織の始動、ISCCの支援体制の検討 ⑥地域住民の参画による豊かな体験的学習の充実(こまちサロン20回以上等)			
【インクルーシブ教育システム】 ・インクルーシブ教育の構築を目指した、交流及び共同学習の実施	①小学部居住地校交流の実施、直接交流だけでなく様々な交流形式を追究(R4年度実績+10%以上) ②交流及び共同学習等学校間交流の計画的な実施 ③地域貢献活動等地域との多様な取組の実施				

アクション3	どのような資質能力の育成でも必要な	【教科指導、教育課程】 ・主体的・対話的で深い学び(個別最適な学びと協働的な学びの追究)、授業改善 ・教育目標に基づく授業実践と地域資源を活用した授業の実施	①担任が行う自立活動の指導の充実と流れ図を使った実態把握から具体的な指導内容の設定 ②確かな学力の育成に向けて基礎基本的な知識・技能の確実な習得を図る教科別の指導の充実 ③主体的に取り組む意欲や自信、自己肯定感を育てる各教科等を合わせた指導の充実 ④各教科等横断的な視点を持った学習の実施 ⑤地域資源活用の取組を継続的に実施		
		【カリキュラム・マネジメント】 ・継続的・発展的な授業改善の推進 ・重層的・機能的な組織運営と教育指導に向けた組織マネジメント	①学部間・教師間の連携、学びの連続性等、12年間を結び、『むすびカリキュラム』の展開 ②総括・教務部長会議と連携しながら各学部で教育課程を検討し、指導計画の改善に生かす。 ③学年・コース長のリーダーシップのもと、学年及びコース運営を効果的に行う。全校学部経営会議で目的等の共有を行う。 ④副学年・コース長を中心にフォロワーシップや教職員集団の同僚性を高める。 ⑤ペアクラスや学年・コースや自立活動推進担当等の教師集団がつながり、日常的に組織的な指導を行う。		
		【GIGAスクール】 ・ICT機器を利活用し、意思表示の手段や外部との関わりをもつことで、生活や学習に対する意欲及び自己表現力を育む。	①タブレットを活用した授業等の実施(学期1人1単元以上) ②プログラミングを取り入れた学習活動の推進、好事例の発信(3事例) ③ICT機器を活用した土浦特別支援学校(姉妹校)との遠隔交流(各学部2回以上)		
アクション4	生涯に及ぶ、生きる力の基盤作り	【読書活動の充実】 ・府特別支援学校の読書活動の牽引校として蔵書整備しつつ、読書活動が定着するように全校プログラムを展開する。	①外部専門家を招き、YS(やまぶきサポーター)と協働し、図書環境を整備すると共に読書活動を充実させる。 ②読書月間や読書表彰式等による全校的な読書活動の推進(本の貸出 年5000冊以上 月1人3冊以上) ③図書・新聞を活用した読書活動を組み入れた授業連携(学部3例) ④特別支援学校読書活動研究会を主催し、取組事例等を発信する。 ⑤蔵書数2500冊以上(R5年度約2150冊スタート) ⑥「誰もが読書ができる学校図書館」を体現するべく、LLブックや布の絵本・さわる絵本、DAISY、電子書籍等を充実させる。 ⑦分類マークの意味理解を促し、分類マークを活用した図書活動の推進(分類マーク地図の作製等) ⑧府立図書館や町立図書館の活用及び団体貸し出しの積極導入(500冊) ⑨読み聞かせの会(12回以上)、読書月間の実施(6月、2月)		
		【生涯スポーツ・生涯文化につながる学習の充実】 ・生涯にわたってスポーツ、芸術・文化活動に親しむ意欲や習慣を育てる指導の充実	①CSを機能させ、ISCC(IdeSportsCultureClub/スポーツ・文化を楽しむ日)を年4回実施する。参加しやすい制度設計の模索(参加者100名以上) ②外部部活指導者による、専門的な指導のもと部活動の計画的な実施 ③府立特別支援学校スポーツ交流会大会等への計画的な参加		
アクション5	大人に向けた健やかな体、豊かな心の育成	【人権尊重の教育の推進】 ・人権を大切に教育の充実 ・適切な生徒指導と、事象の共有化	①12年間を結んだ主権者教育や人権教育を計画的に行い、社会へとつなげる指導を行う。 ②SCやSSWと連携し、指導事象を共有化する関係者会議等を行う。 ③心理面の支援に重点をおく教育相談体制の充実、年度当初に全高等部生(小中は希望者)のSC面談を行い心の相談相手の認識を高める。 ④人権尊重の観点から児童生徒の適切な呼称(「さん・さん」呼び)等、校内・職員室内の言語環境の充実 ⑤アンケートによるいじめの未然防止と体罰・不適切な指導の禁止・根絶		
		【安全教育の推進】	①各学部で安全教育を単元化し、計画的に進める。 ②児童生徒の防災頭巾(家庭準備)、教職員の安全ヘルメットを100%備える。 ③安全の日を設定し、防災・防犯・安全訓練を実施(月1回以上) ④施設安全/施設・設備利用に関する安全な利用方法の徹底(行方不明・けが等の防止、安全表示) ⑤通学安全/通学環境の整備(SB 発着体制、送迎車両対応、通学路点検) ⑥避難訓練/外部評価を活用した、より実際に則した訓練の実施		
		【保健指導、教育相談、特別活動】 ・安全・安心な保健体制の構築	①個に応じた安全でおいしい給食提供と楽しい給食タイムの実現 ②適切なアレルギー対応を行う為の教職員研修及び校内保健体制の構築 ③安心安全な医療的ケア制度の実施、並びに適正な医療的ケア体制の堅持		
アクション6	現より目指す自立と社会参加の育成	【進路指導・支援】 ・希望進路の実現と進路開拓	①高等部卒業後の社会参加を見据えた12年間を通じた進路学習及び保護者支援の充実 ②高等部コース制に連動させた実習先開拓と実習、校外実習(職場実習)を積極的に実施し、働くことへの意欲を高める。 ③進路情報の教職員への周知・学習の機会として校内研修等の実施や、事業所や実習先へ見学する機会を設ける。		
		【キャリア発達等】 ・児童生徒がライフステージを意識した、学習活動と学部ごとのゴールを明確にしたキャリア教育の推進	①社会や人の役に立つ喜びを豊富に体験し、児童生徒の自己肯定感や意欲を育てる一貫性のあるキャリア教育の推進 ②自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、振り返ったりして、自己評価を行うとともに、主体的に学びに向かう力を育み、自己実現につなぐキャリアパスポートの作成と活用		
アクション7	早期支援を重視した地域支援	【井手やまぶき相談・支援センターのみならず全校による地域支援】	①園や学校からの依頼に基づき早期から学びにくい子への支援を行い、子どもの肯定的な自己理解を積み上げる。 ②個別最適な学びにつながる個別相談の充実 ③市町教育委員会等との綿密な連携による、相談等の円滑な実施と、校区相談支援体制の整備に向けた支援の充実 ④地域の関係機関との連携を強化し、各学校の教育の情報共有により、障害のある児童生徒及びその保護者へのきめ細かな支援を行う。 ⑤本校の地域巡回相談員の積極的活用		

学校関係者評価委員会による評価	
-----------------	--

次年度に向けた改善の方向性	
---------------	--